

氏名	高 原 二 郎
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 2 2 9 号
学位授与の日付	昭和42年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	ACTH の脳組織に及ぼす影響に関する研究 第1報臨床的観察並びに副腎別出犬の脳浮腫に対する ACTH の影響に関する実験的研究 第2報正常マウス脳組織及び副腎別出頸動結紮ラッテ脳 組織に対する呼吸及び嫌気性解糖に及ぼすACTHの影響
論文審査委員	教授 平 木 潔 教授 小坂 淳夫 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ACTHは日本脳炎、点頭痙攣に対して著効と示すことが知られており、又ACTHには経験的に副腎皮質ホルモンの作用以上のものがあると推定されたためACTH治療をうけた神経系疾患71名の統計をとり、更に動物実験として副腎別出犬の脳浮腫、副腎別出ラットの脳浮腫及び正常マウス脳の呼吸嫌気性解糖の各々に対するACTHの影響を検討し、次の結果を得た。1) ACTH治療により日本脳炎、パーキンソン氏症候群、小舞蹈病で著効を見た。2) 副腎別出犬の脳浮腫に対するACTHの影響はACTH治療群では対照群に比して脳浮腫は著明に改善された。3) 慢性実験として副腎別出ラットの脳浮腫に対するACTHの影響を見、頸動脈結紮群では呼吸及び嫌気性解糖共に低下が見られたが副腎別出群では低下は認められなかった。4) ACTHは In vitro では正常マウス脳組織に対して何ら影響を与えない。これらの事よりACTHには副腎を介さず脳浮腫を防止する作用が存するものと推定された。

論文審査の結果の要旨

本研究は、ACTHの脳神経系疾患に対する作用が単に副腎皮質を介する作用だけでなく副腎皮質を介さない作用も考えうるとして、臨床的及び実験的研究を行い、脳浮腫に対するACTHの副腎外作用、特にACTHのCortisolを増強する作用を証明している事は価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。